

MY DEAR GLOBE (親愛なる私たちの地球)



# 株式会社 SANKEI (三惠工業株式会社)



社屋外観

## 企業概要



代表取締役社長

岡田 篤典氏

**所在地** 三重県鈴鹿市上野町字助町48番地  
TEL:059-378-1243 FAX:059-378-3718

**設立** 1951年(昭和26年)8月

**資本金** 5,000万円

**従業員数** 107人(2022年6月現在)

**事業内容** 金属製椅子の製造及び販売

**URL** <https://www.isu-sankei.co.jp/>

環境にやさしい商品仕様、工場設備を展開し、社会のニーズに沿った製品を提供する。

## 折りたたみイスの国内生産トップ企業

三惠工業株式会社は1951年、株式会社三惠ブレイキ製作所として名古屋市で創業。当時は鋼製家具の製造販売を中心としていたが、高度経済成長の中で折りたたみイスの需要が増えることを見越し、その製造販売に特化。62年、現在の鈴鹿市上野町に工場を移転した。以来、同社は折りたたみイスの国内生産

トップ企業として、数々の製品を世に送り出している。

また、同社は環境にやさしい製品づくりをスローガンに掲げており、国際環境マネジメントシステム規格「ISO14001」認証取得のほか、環境に配慮した製品を積極的に開発。2012年には第1回みえ環境大賞 環境経営部門を受賞している。

## SANKEIの価値をさらに高める

岡田篤典氏は、父・信春氏の後を継いで19年に代表取締役社長に就任。パイプイスの製造・販売メーカーとして築き上げた礎を活かし、時代の先を見据えたものづくりを行っている。

同社の強みは製品企画から開発、製造、販売まで自社で一貫して行えることにある。本年6月に自社の販売部門と製造部門を統合し、「株式会社



折りたたみイスのフレームの組立て作業



SANKEI」としてスタートした。岡田社長は「これからはアイデアをかたちにするだけでなく、価値を変えていきたい。そのためは販売、開発、製造の各部門が意見を出し合い協力する必要がある」と話す。統合は全社一丸となつてSANKEIの価値をさらに高めていく決意の表れである。

**使用者のニーズに合わせた商品開発**

SANKEIの折りたたみイスに座ったことがない人を探すのが難しいと思われるほど、同社製品は我々の生活に浸透している。自社ブランド以外にコクヨ、オカムラといった大手オフィス家具メーカーのOEM製品を手掛けており、国内製折りたたみイスのシェア7割以上を占めている。



軽くて強いアルミの折りたたみイス

家具メーカーの製品だという。「家具の先進国はやはりヨーロッパや北欧。海外家具のトレンドを知ること自社製品づくりに生かしている」という。

**誰もが働きたい 職場づくりと技術継承**

同社では皆が働きたい職場づくりを心がけており、従業員の有休消化率も高い。繁忙期には休日出勤をお願いすることもありますが、比較的忙しくない時期は好きな時に有休をとってもらっている。男性の育児休暇の取得も以前から進めているが「男性の育児休暇が特別なこととは思っていないため、今この制度が話題

パイプ製の折りたたみイスは、かつては体育館やホール、学校施設等の備品として大量購入され、「作れば作るほど売れる」商品だったが、今は必要な時に必要な分だけ使うレンタルリースが主流になりつつある。

そういった時代や使う人のニーズに合わせて、SANKEIの折りたたみイスはさまざまな進化を遂げている。進化のひとつが「軽さ」を追求したイスだ。これは「設置搬入がしやすいイスが欲しい」というリース業者の要望から生まれたもので、重量は国内製品の中では最も軽いとされる1脚1・8kg。従来品よりもやや小さめで、子どもでも片手で楽に持ち運びができる。また、保管の場所をとらないコンパクトな「収納性」も重要であるため、たたんだ際にまっすぐ平積みができる形状のイスも開発した。

そして「安全性」。過去に「折りたたみイスを閉じる際、ジョイント部分に指を挟みこんで怪我をする危険がある」と指摘されたことがあった。同社は業界で初めて、指を挟みこまない折りたた

になっていること自体が不思議だ」と岡田社長は話す。

また、風通しのよい社風であるためか、社内のコミュニケーションは自然体に行われているという。社員の家族も招いての旅行や夏祭り、バーベキューなどのレクリエーションも年に数回開催し、さらに交流を深めている。

同社は高卒採用を行うことから平均年齢が30代と若い。一方で、定年退職後も嘱託社員として働き続けるベテラン社員も多く在籍している。製造現場では若手への技術継承が重要であり、知識と経験を蓄えたベテラン社員は同社にとって欠かせない存在だ。「元気に働いてもらえるうちはずっと当社にいてほしい」と岡田社長は微笑む。若手社員に対しては、「通りの仕事をこなせるようになるだけでなく、自分のやりたいことに積極的にチャレンジしてほしいの思いから、業務に関する資格取得を支援している。

**社員が誇りをもてる会社に**

テレビに映るさまざまな場面



伊勢型紙を使用した折りたたみイス

みイスの構造を発明し特許を取得。この構造は、様々なメーカーの商品に採用され、すでに業界標準化している。

次に環境に配慮した製品として、紙を素材に使用した子ども用折りたたみイス「HECMEC(ヘックメック)」を開発。同製品は第6回エコプロダクツ大賞 審査員長特別賞(奨励賞)やキッズデザイン賞(商品デザイン部門)を受賞した。また、三重県工業研究所との共同研究で開発した、自立を助け、介助の負担を軽減する起立介助チェア「立介(T.A.S.U.K.E)」は全国版のニーズでも紹介された。

**イスの魅力は後ろ姿にあり**

イスという製品に求められる第一の要素は座り心地の良さであることは間違いない。しかし、

で折りたたみイスは使われている。ドラマや映画の1コマ、有名俳優がイスに座っているシーンなど見ありふれた光景でも、自社製品かどうか社員はすぐにわかるといふ。「自分の作ったイスがテレビに映ると嬉しいし、仕事のやりがいやモチベーションアップにつながると思う」と岡田社長は話す。

モチベーションという点では、会社の知名度の高さもひとつの要素かもしれない。2020年4月、「鈴鹿市民会館」のネーミングライツ(命名権)を取得し、「イスのサンケイホール鈴鹿」と名付けられた。命名権取得の理由は「地域の人に同社のことを知ってほしい」という気持ちからだ。社員や家族にとっても社名が広く知られることは誇らしく、働く意欲が高まるだろう。

**世の中にまだないものをつくる**

社名を新たにし、未来に向けてスタートした同社。折りたたみイスという業界の今後について、岡田社長は「競争も必要だ



背もたれに合板を使用した会議用イス

座り心地と同じくらい見た目、デザイン性も重要な要素である。「体育館やイベント会場でイスに座ったときに見えるのは、前に置かれたイスの背面。後ろ姿の格好良いものこそ、格好良いイス」と岡田社長。デザイン性が高い同社製品は取引先や他社にも人気で、同じデザインのイスを自社ブランドで出したいとのオファーは多い。

同社は、取引先の「こういう商品をつくりたい」という要望に対して、柔軟に応えることができるため、共同開発も数多く行う。しかし、できないことやうまくいかない判断したことははつきり伝え、意見をすり合わせながらより良いものを作るように努めている。

岡田社長が製品開発において参考としているのは、海外の有名企業が、共創も必要。他社や顧客と共に創り上げていく「共創」がキーワードになっていく」と語る。「長年培ったイス製造の技術を生かした、世の中にまだないものをつくりたい」と岡田社長。SANKEIが次に生み出すアイデアが楽しみだ。

文〓会員事業部 鈴木理可

**支店より一言**

ヒトを大切にす会社。株式会社SANKEIでお会いした方々が皆さん伸び伸びと仕事されている姿を見て、そう直感しました。こうした姿勢はモノづくりにも反映され、イスに座るヒトを大切に想う気持ちで製品の随所に現れています。製販統合でさらに進化させたSANKEI。「環境」「安全」「収納」「快適」をキーワードに世界中の座るヒトへ新たな価値を提供してくれると確信します。



百五銀行 加佐登支店長 町野 友也